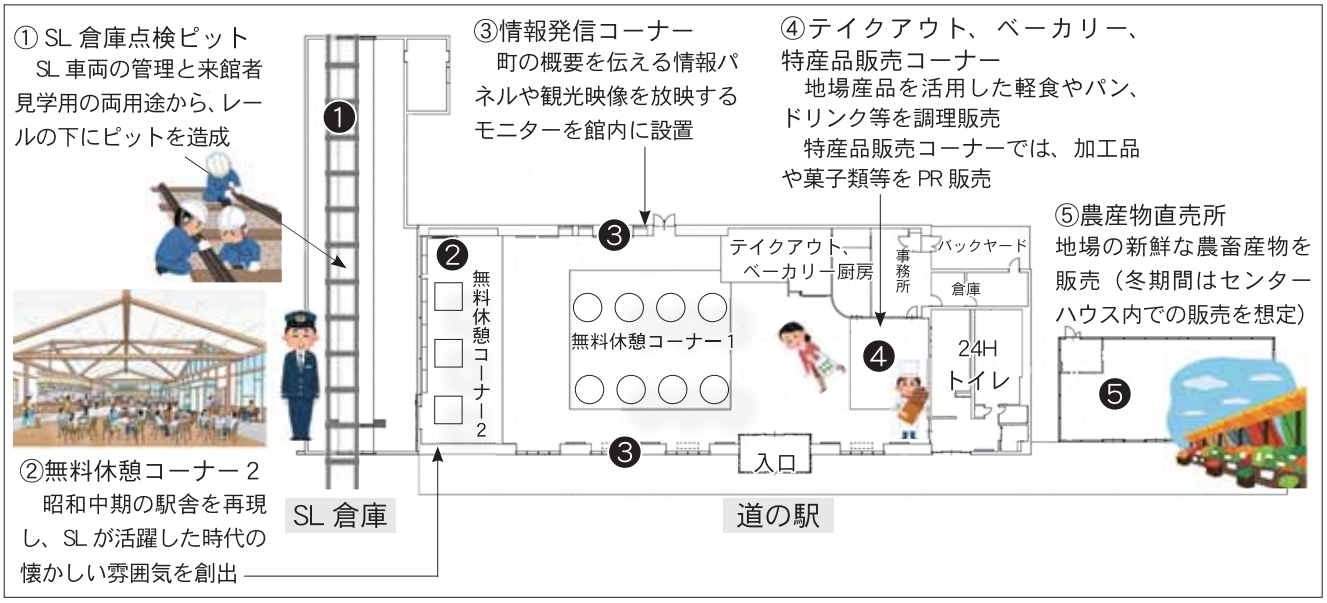
道の駅の内部を見てみよう！

平成 31 年春にオープン予定の道の駅。

今回は、施設の内部をご紹介！

安平町固有の地域資源を集結させて町内外の人々との交流・つながりを生み出し、町全体の活性化を目指す道の駅には、無料休憩コーナーや 24 時間トイレをはじめ、情報発信コーナー、SL 倉庫、テイクアウトコーナー、ベーカリーコーナー、特産品販売コーナー、農産物直売所を開設します。



①「SL 倉庫」のピットってな～に？

車両を下から見るためにレールの間に掘られた溝のこと。前から後ろへ通り抜けることができるため、見学者には貴重な体験となります。

②の休憩コーナーには何を置くの？

石炭ストーブや昔の時刻表、ポスター、看板など、昔の駅舎に見られたレトロな資料を展示し、ノスタルジックな空間を演出します。

施設の概要・工事費

工事項目	金額（千円）	備考
本体等工事費	634,197	道の駅、直売所、SL 倉庫、太陽光発電設備、EV 用充電設備
外構工事費	141,647	駐車場等
附属工事費	33,130	SL 移設費等
その他備品購入	54,897	什器備品、厨房器具等
設計管理費	55,170	実施設計費、工事監理費等
合計	919,581	（国交省補助金を活用）

建設地	追分柏が丘 49 - 1
敷地面積	9,919.80 ㎡
構造	道の駅センターハウス部分：鉄骨造（地上 1 階） 農産物直売所：木造（地上 1 階）
延べ床面積	センターハウス（24 時間開放部含む）990.26 ㎡、SL 倉庫 320.40 ㎡、農産物直売所 145.80 ㎡〔合計 1,456.46 ㎡〕
24 時間開放	男性用トイレ（小 7・大 4）、女性用トイレ（10）、多機能トイレ（1）、授乳室（1）

広報あびら６月号でお知らせした「道の駅」完成予想図に寄せられた ご質問・ご意見にお答えします。

Q1　なぜ柏が丘球場の隣に建設するのですか？　敷地が狭くないですか？

土地の取得経費抑制と防災拠点としての機能性を考慮し、町有地であるこの位置を建設地としました。

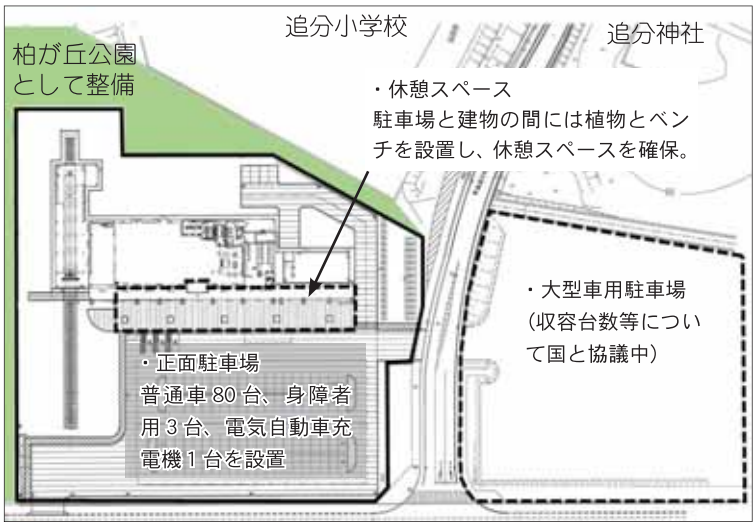
道の駅本体施設と正面駐車場で敷地面積は約１ヘクタールですが、道の駅と合わせて野球場横の隣接地を「柏が丘公園」として整備し、一体的な滞在エリアを創出する予定です。

このほか、下の外構図のとおり大型車駐車場を整備する予定です。

Q2　建物のスペースが小さくないですか？

SL 倉庫を含めた本体施設で 1,310.66 ㎡、農産物直売所を加えると 1,456.46 ㎡であり、全道的にも比較的大きめの建物面積を有しています。室内にはゆったりとしたオープンスペースと昭和時代の駅舎を再現する２種類の休憩スペースを充実させています。

また、施設正面にも植物やベンチを配置し、来訪者がゆったりと過ごせるスペースを確保しています。



Q3　大型車駐車場は作らないのですか？

町道を挟んで岩見沢側に大型車駐車場の整備を予定しており、現在、国との協議を行っています。

正面の駐車場は、国道から道の駅が目立つよう配慮し、主に普通車の駐車場とする予定です。

道の駅に関するご意見にお答えします

【意見】道の駅をつくって町を盛り上げるのであれば、安平町の物、場所、歴史等をしっかりアピールして魅力的な場所にし、町内の色々な場所に足を運んでもらえるようにしていくことが大切だと思います。

【回答】町としても同じように考えています。 安平町は立地条件に恵まれ、魅力ある特産品や地域資源がたくさんありますが、それぞれが分散して存在しており、効果的な魅力発信につながっていない一面があります。

道の駅完成後は、地域の拠点施設として農産品や特産品、歴史、文化、そしてこれらを支える人の力を集結させて町を PR していくとともに、町内の様々な場所への回遊につながる仕組みをつくっていきたいと考えています。

町内で協議が進められています

◆道の駅農産物直売所生産者協議会準備会

今年２月に『道の駅農産物直売所生産者協議会準備会』が発足しました。

この会は、「農産物直売所生産者協議会」の組織化に向けて会内での販売ルールや規約作りを目的に開設され、現在までに３回の会議を行っています。

メンバーは 14 名で、道内各地の生産者協議会の事例を参考に、販売上の条件や出荷ルールが話し合われています。

◆『回遊交流戦略検討会』を開催

６月 24 日㈮に第１回目の『回遊交流戦略検討会』を開催。この検討会は、「交流人口拡大と回遊性を高める方策」や「回遊交流の拠点となる道の駅の運営手法」を協議することを目的に、開設されました。

当日は、あびら観光協会や商工会、一般町民など様々な立場から 18 名が参加し、町を取り巻く観光の現状について認識を深めるとともに、先進道の駅の運営手法等について実例を分析しました。